

(1) 健全な病院経営	
目標	<p>病院経営の健全化を図るためには、収益の拡大や経費の抑制による経営の効率化が必要不可欠であることから、これまでの取り組みの更なる強化を図りつつ、様々な視点から検証・検討を加えて新たな策を講じるなど、持続可能な経営基盤を構築するための取り組みを進めます。</p>
取り組み	<p>1. 消化器センターの立ち上げ</p> <p>本院に、消化器内科と消化器外科を統合した『消化器センター』を新たに設置し、内科医・外科医が1つのチームとして専門性の高い医療を、他の医療スタッフとの緊密な連携のもとに行うことで、がんを始めとした消化器疾患全般に対し、幅広く包括的に対応します。</p> <p>これにより、一人ひとりの症状に最も適した質の高い医療を提供することとなるほか、患者の皆さんにとって受診時の負担軽減が図られ、また地域の医療機関からの紹介や救急患者の受入れも、より迅速な対応が可能となります。</p> <p>この消化器センターを本院における診療の柱として、様々な媒体を利用して積極的にPRすることにより、救急患者の受入や手術件数を増加させ、収益の改善にも繋がります。</p> <p>2. 外部コンサルタントの活用</p> <p>病院経営に関して豊富な知識や経験を持つ外部コンサルタントを活用し、院内に設置する「緊急経営改善チーム」との連携のもと、院内の各部署に対し、個別具体的な目標を設定した上で、その達成に向けた実効性のある取り組みを進めます。</p> <p>3. 地域連携の更なる推進</p> <p>本院が地域の中核となる急性期病院としての責務を果たすため、引き続き、地域の診療所への訪問を計画的かつ積極的に行い信頼関係を築くことで、紹介患者の増加に努めつつ、引き続き「地域医療支援病院」の承認を見据え、紹介率及び逆紹介率の向上について職員の意識徹底を図るなど、地域の医療機関との業務連携の更なる強化に取り組みます。</p> <p>《目標値》</p> <p>紹介率 : 65%以上 逆紹介率 : 70%以上</p>

4. 医師の確保による収益力の向上

収益向上には診療体制の充実が必要不可欠であることを踏まえ、今後も引き続き、医師について、効果的な収益構造を構築するための適材な配置を検討しつつ、積極的な確保に努めます。

5. 医療機器等の更新計画の新たな策定

将来にわたり、安定的な運用に資するため、新病院建設時に購入した医療機器に加え、これまで新たな医療サービスを行うにあたり購入した医療機器などの更新年度を見据えた年次的な「更新・保全計画」を新たに策定します。

6. 医療情報システムの更新

導入後7年が経過する電子カルテシステムを更新します。更新にあたっては、医師等の職員によるインシデントの発生リスクを抑えるとともに、効率的な医療事務を充実させるシステムを構築します。

**9 月末の
進捗状況
【〇】**

1. 消化器センターの立ち上げ

がんを始めとした消化器疾患全般に対し、幅広く包括的に対応できるよう平成 31 年 4 月より、新たに「消化器センター」を設置しました。

消化器センターを、本院の診療体制の柱として充実させ、持続的な経営努力を重ねることで、地域に根ざした市民から信頼される病院であり続けるよう努めていきます。

2. 外部コンサルタントの活用

院内に設置する「緊急経営改善チーム」との連携のもと、院内の各部署で目標を設定し、その目標の達成に向け、それぞれの部署とディスカッションを実施するなど具体的な取り組みを進めています。

3. 地域連携の更なる推進

地域の医療機関との信頼関係の強化が重要と考えていることから、地域の医療機関への訪問を市内だけでなく隣接する市まで範囲を拡大し、顔の見える関係の構築に向け、取り組んでいるところです。

4. 医師の確保による収益力の向上

効果的な収益構造の構築には、医師のさらなる増員が必要であるため、大阪医大に対して積極的に要望するなど、今後も引き続き、必要数の医師の確保に努めていきます。

5. 医療機器等の更新計画の新たな策定

新病院開院時に整備した医療機器等の更新について、年次的に更新を行うため、担当部署と調整し「更新・保全計画」の策定作業を行っているところです。

6. 医療情報システムの更新

9 月 20 日から 21 日にかけて、電子カルテシステムの更新作業を行いました。更新にあたっては、事前に医師等の職員への説明会等を実施し、インシデントの発生リスクを抑えるよう努めました。